

日本の小学生のみなさまへ

～2019年6月1日 ワールド・ミルク・デイに寄せて～

皆さんこんにちは。私は、国連食糧農業機関の駐日連絡事務所の
ンブリ・チャールズ・ポリコ (Mbuli Charles Boliko) と申します。

国連食糧農業機関は、FAOとも呼ばれている国連の専門機関のひとつで、
世界で食べ物がなくて苦しんでいる国や地域を助ける仕事をしています。

皆さん、今、世界では約8億2100万人、9人に1人が十分に食べられなくて苦しんでいます。
それなのに、日本では、毎日ひとり当たりお茶碗1杯分の食べ物が捨てられています。

食べ物を捨てるということは、
作るために使った水や働いた人の仕事もすべてを捨てるということです。
そして捨てた食べものは無駄なエネルギーを使い、温室効果ガスを出して、
もっと地球を傷つけるのです。

6月1日は「World Milk Day (ワールド・ミルク・デイ)」です。
「World Milk Day」は、栄養豊富な食品としてのミルクへの関心を高め、
生産する酪農乳業の仕事の大切さを世界の多くの人々に知ってもらうため、
FAOが世界的なミルクの記念日として定めています。

皆さんにお願いがあります。この記念日をきっかけに、
毎日の給食で飲んでいるミルクや他の食べ物がどうやってつくられ、
届けられているかを考えてみてください。

また、「食べ物を無駄にする」とどうなるか、「食べ物を大切に使う」とは、
どのような行動をとれば良いのか、お家の人、学校の先生や友達と話し合ってみてください。

「食べ物を大切に思う気持ち」と、
それについて一人ひとりが考えたことを身近なくらしのなかで行動することこそ、
世界の国や地域の人たちの深刻な食べ物が不足する問題の解決にも繋がっていきます。

国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所
所長 ンブリ・チャールズ・ポリコ

